

事務事業名		道路・河川等占用許可事務事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業							
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造			事業期間		予算科目							
	施策名	02 良好な生活空間の創造					会計	款	項	目	事業			
	基本事業名	01 生活道路の整備												
根拠法令		道路法、河川法			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 不明 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入									
所属	部課名	都市整備部建設課												
	係名	道路管理係	電話	0192-27-3111										
			内線	318										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							全体計画(期間限定複数年度のみ)							
市で管理している市道、準用河川、公共用財産(公衆用道路・普通河川)をやむを得ず占用する者からの申請により、その内容を精査し、許可することを通じて、不法に占用するものを排除し、道路、河川の機能を確保する。また、大船渡市道路占用料徴収条例及び道路法等の適用を受けない公共用財産の管理に関する条例に基づき占用料を徴収し、受益者負担を確立する。 主な業務は、新規占用の申請書受付と審査 継続占用の審査 許可事務、占用料の徴収 占用廃止の促進。 事業費はなし。 (なお、東北電力、NTT、水道事業所、下水道事業所の占用については今回、件数等から除外した。)							総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金				
										都道府県支出金				
										地方債				
										その他				
										一般財源				
										事業費計 (A)				0
人件費	正規職員従事人数													
	延べ業務時間													
	人件費計 (B)				0									
	トータルコスト(A) + (B)				0									

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 新規占用、継続占用の審査、許可事務。占用料の徴収。占用廃止の促進。		名称	単位
		ア 新規・更新占用件数	件
		イ 占用廃止件数	件
		ウ	
今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 新規占用、継続占用の審査、許可事務。占用料の徴収。占用廃止の促進。占用システムの導入。		対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
		名称	単位
		カ 市道延長	km
		キ 河川延長	km
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 不法占用を排除し、機能を維持してもらう 道路・河川等の機能を損なわないように利用してもらう		ク 占用件数	件
		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		サ 占用料徴収率	%
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安全で快適に移動できる		シ 不法占用排除件数	件
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円					
		事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4
		延べ業務時間	時間	400	400	400	400	400
		人件費計(B)	千円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
活動指標	ア	件	110	280	308	273	181	150
	イ	件	20	20	10	13	16	6
	ウ							
対象指標	カ	km	596	596	595	596	601	605
	キ	km	12	12	12	12	12	12
	ク	件	840	840	840	840	1,118	1,081
成果指標	サ	%	99.8	95.8	99.1	99.0	97.9	95.6
	シ	件	0	0	0	0	0	0
	ス							

事務事業ID	0689	事務事業名	道路・河川等占用許可事務事業
--------	------	-------	----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

道路法施行（昭和27年）、及び2町5村合併により大船渡市市制施行時より開始されたのではないかと。現存する道路占用台帳では、昭和40年が最古である。

事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

道路・河川占有者、占有物件は微量ではあるが、増加傾向にある。また、大船渡市道路法等の適用を受けない公共用財産の管理に関する条例が平成13年に施行されたこと、平成16年度に公共用財産の所有・管理について国から市に譲与されたことに伴い、公共用財産占有者、占有物件とも増加している。

この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

占有者から、占有申請許可事務（更新含む）の簡素化、占用料免除を求める意見がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 適切な占有物件の管理により、道路・河川等の機能を維持でき、快適な都市環境の創造につながる。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 占有先の市道、河川、公共用財産は市の管理となっており妥当である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象は占有者、占有物件に限定される。意図についても止むを得ない場合のみ、道路法等で決まった範囲に限定されており適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 下水道供用開始区域での下水道への早期接続に伴う排水管の占有廃止など市民の方が認識できていないので、周知を徹底する。 占用料徴収率が100%になっていないので、100%にする。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 占有物件は生活に欠かせないものであり、廃止・休止した場合、市民の生活に影響が出るのは必至である。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない [理由] 個別事業であり、他に類似事業がない。
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 当事業費は人件費のみであり、その他事業費に削減余地はない。
	人件費（延べ業務時間）の削減余地	☒ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない [理由] データを整理し、コンピュータ（GIS、データベースなど）で管理することにより、人件費を抑えることができる。道路・河川を管理する係が占有物件を把握しておく必要があり、委託などはしない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である [理由] 道路・河川などの機能が整備されている箇所より、整備されていない箇所が、より高い占用料金を課せられることがある。

事務事業ID	0689	事務事業名	道路・河川等占用許可事務事業
--------	------	-------	----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 年々占用物件が増加しているため、データの整理が必要である。占用料金の公平性の観点から、条例整備も踏まえた見直しが必要である。 また、例えば、下水道工事の進捗状況により、浄化槽排水の個人占用廃止を促すなど占用物件の減少に努める必要がある。																			
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☐ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) データを整理する。 条例の見直しをする。 (免除項目の見直し、更新期間の見直しなど)		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)					(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上	●																															
	維持			×																													
	低下		×	×																													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 他市等も参考にしながら、より適切かつ効率的な事務処理について、総合的に検討する必要がある。																																	

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	建設課長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 データの電子化を図り、管理をする必要がある。																			
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☒ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) データを整理する。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																														
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																		
		コスト																																
		削減	維持	増加																														
成果	向上																																	
	維持		●	×																														
	低下		×	×																														

5 最終評価結果

(1)行政経営推進会議等での指摘事項
